

またあいつ

精像宗字題

第85号
令和6年7月13日
発行者
福島県公立学校
退職校長会
北会津支部
齋藤秀一

支部長だからできること

支部長 齋藤 秀一



令和六年五月中旬、中教審から「教員給与増への法改正」「人材確保策」「残業の削減」等の提言が出された。教職調整額を四％から十％に増額する。残業は月四十五時間以内を目標にする。学級担任の負担軽減に向け教科担任制を高学年だけでなく中学年まで拡大するというのが主な内容である。これらは、一刻も早い実現が望まれる。

只、現実的には中々厳しいものがある。

教員を目指す学生が年々減少してきているという現実。いくら給与が増額されても、時間外勤務も改善されなくては魅力薄だし、教員の多忙化解消・働き方改革のどちらにも関わる残業時間の短縮は予算との絡みもあり簡単ではない。

多忙化解消策の一つ、部活動の自粛についても指導員を地域の専門家に移行し教員の負担を軽減していくと謳ってはいるものの地域の人材不足で、順調に進んでいるとはいえない。

これら、沢山ある課題に、私達退職校長会としても、何らかの形で関わり、訴えたいと思うが、「今の先生方は大変だな」なんて愚痴

をこぼしたただけで終わってはいけないと思う。

先日行われた県の評議員会で、福士会長から出た話が、「福島大学に行って講演をしてきた。そこで学生達に教職の大切さ・すばらしさを力説した。講演を聴いていた二百余名の学生に卒業後教師を目指すか尋ねてみたところ九割以上が教師になるつもりである」と回答したそう。会長も必死である。とてもありがたしい嬉しい話である。

県の事務局は県教委とも全国連合退職校長会とも関わりを持ち、要望事項を強く訴えているという。そう考えると、北会津支部からの意見や要望を、県の事務局に抜けなく丁寧に伝える事の大切さを感じるし、その橋渡し役として最も相応しいのは支部長の私であろうと思うので、これまで以上に県との連携を深める努力をしていきたい。一つの積み重ねが、全連連にも文科省にも伝わっていく事になるのだと信じている。

悠悠水墨画展

夏井敬子

これから



通りかかったあるお宅の菜園に私の顔より大きな葉が列をつくって地面を這っていた。黄色の花三個つけて。カボチャの苗だ!!

葉の勢いと花の初々しさ蔓ののびのびした今の姿を「これから」の成長を期待しながら表現したく描いた。

あの森は今



僻地に勤務した所は春は緑、秋は赤、冬は白と三原色の世界でもとも美しかった。特に冬の真っ白な世界は何とも言えない美しさだった。あの景色を思い出させる一枚の写真が新聞に載った。あの森も今このように美しく輝いているのだろうか。と懐かしみながら描いた。

あの日



墨に五彩ありと言われているように水墨画の美しさは墨の濃淡にあると思っっている。墨のつけ具合、水の含み具合でいろいろと表現ができる。「あの日」は大きな刷毛で墨と水をコントロールし一気に描いた。想像以上に面白い空が描けた。挑戦することも楽しい。

特別寄稿

「組織の再デザイン」



磐梯町教育委員会

教育長 高梨 哲夫

退職校長会北会津支部会員の皆様には、磐梯町の子どもたちの教育活動や生涯学習にお力をお貸しいただいていることに、この場をお借りして感謝申し上げます。

磐梯町では、本町の目標である「自分たちの子や孫たちが暮らし続けたいまちづくり」を受けて、磐梯町教育委員会では「未来の磐梯町をつくる人材の育成」を目標としております。現在、「磐梯の教育VI」を實踐しており、「子どもたちが、磐梯で学び育ったことを誇りに持ち、未来をたくましく生き抜くことができ

る教育」を目指して取り組んでおります。

そこで、磐梯の〇歳から十五歳の子どもの教育について検討することになり、今年度から磐梯町教育委員会の組織を再デザインして取り組むことになりました。

基本方針として「多様性と包摂性のある磐梯町を子どもと大人でつくる」を掲げ、磐梯町の教育で大事にするについて、次の三つを基本方針の柱としました。

- (一) 子どもも大人も「多様性と包摂性」の中で生活する
 - (二) 子どもが自分に合った「学び方」や「学びの環境」を選ぶことができる
 - (三) 大人も「我が町の学校」をつくりながら学ぶ
- また、磐梯町の学校・園が共通で大事にすることについて、次の三つを掲げました。
- (一) 多様性と包摂性の中で楽しく生きる **【共生】**

- (二) 自由と責任をもってそれぞれのウェルビーイングを尊重する **【公正】**
- (三) 自分たちの居場所を自分たちでつくる **【自治】**

この理念を実現するにあたり、各学校の教職員のサポートや研修・研究などを推進するための組織が必要だと考え、教育再デザインセンターを立ち上げました。主な業務は、次のとおりです。

- (一) 〇歳から十五歳の「磐梯の教育」の再デザイン
- (二) 磐梯町の〇歳から十五歳の個々の成長を見通して、子どもたちの成長を支える保育園・幼稚園（こども園）・小学校・中学校の教員の資質向上に向けての学びと、日々の実践、研究、研修、困りごとなどのサポート
- (三) 多様性と包摂性の理解や実現のための生徒並びに保護者に対する学びのサポート
- (四) 学校を中心とした地域づくり（スクール・コミュニティづくり）の推進

- (五) 学校運営協議会や地域学校協働本部による地域と家庭との連携に関わる運営とサポート

また、現在保育所と幼稚園を統合して認定こども園を開園するにあたり、準備室を再デザインセンターが兼ねております。主な業務は、次のとおりです。

- (一) 教育課程の検討・準備
 - (二) 保護者や教職員への説明
 - (三) 施設の検討・準備
 - (四) 民間移行への検討
- 昨年からニュージーランド語学教育交流を始め、十一月二十五日から十二月三日にかけて、磐梯中学校の二・三年生で希望する生徒が参加しました。ハミルトン市の家庭にホームステイしながら、現地の文化・歴史などの異文化に触れ、活きた英語を学んだ子どもたちの成長する姿を目のあたりに感じました。最終日には、現地の校長先生より一人ひとりに、一週間の短期入学した達成証明書が手渡されました。詳細につきま

しては、磐梯中学校のブログで語学教育交流の様子を見ることが出来ます。



ニュージーランドでの語学教育交流

磐梯町では、ひとりひとりを大切に、多様な人々と、共に生きていくことのできる人材を育てていくために必要な教育を、教職員、保護者、地域が丸となった、今までの教育を活かしながら、これからの「磐梯の教育」を共につくっていく予定であります。

最後になりますが、本町の将来を担う子どもたちのために、ハード・ソフトの両面からよりよい教育環境の充実に努めて参ります。

会津百名山、 そして喜寿

葉貫正憲



いつのまにか喜寿を迎えた。自分が喜寿だというのが不思議でならない。退職時に立てた目標の一

つは山歩きで、日帰りを基本に「会津百名山を八割踏破すること」だった。会津百名山は登山道のない山や只見や松枝岐の遠地にある山も多い。なかなか手ごわそう。自己流の山歩きは一人では危ない。仲間を誘い四名で活動を開始した。四人が交替で運転すれば思いがけなく早く達成できるかもしれないなどと軽く考えたりもした。ところが一年

目はわずか七座、この調子なら十年以上はかかる計算。順調にいかないものだと思っただ。その原因は、山行計画がよくなかったこと。そこで活動日を計画的に設定したところ二年目は十八座を達成。計画は早めに立てておくべしである。ところが、思いつきで片っ端からでかけたため、遠地や登山道のない山など難関の山が残っていく。また未

知の山へ行くには情報が決定的に不足していた。当初は一九九八年発行の『会津百名山』を頼りに下調べをしたのだが、実際の行程では戸惑いの連続だった。もっと情報がほしいとネットを検索。すると『会津百名山案内』《会津百名山》など有力な情報が次々とみつかった。ほしい情報が瞬時に入手できるネット時代のありがたさを痛感した。その後

は順調に踏破を積み上げ、八年でなんとか目標を達成することができた。その後は県内や近隣の山に範囲を広げ、活動を継続し今日に至っている。また、冬季は雪歩きをし、リフトに乗って猫魔ヶ岳や箕輪山など眺めのすばらしさも体感できた。目標達成どころか、会津百名山はたのしくも得難い経験になったように思う。

遺稿 道の駅巡り

玉川武



先日の支部総会の席上、「喜寿」のお祝いをしていただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

この度、広報「きたあいづ」の原稿依頼があり、昨年挑戦した「道の駅」巡り

について、書いてみることにしました。

まず「全国道の駅ガイドブック」を購入し、東北を巡ることにし、「道の駅スタンプラリー」の本も買いました。福島県内と山形県・宮城県は原則日帰り、秋田県・青森県・岩手県は宿泊しながら巡ることとしました。高速道路を使用する場合はETC「ドラ割」を使用し、三日間乗り降り自由で、通常より四割程度安くなりました。ホテルも日教

随想

弘指定の宿泊施設を選び一泊三千円の補助を利用しました。ガイドブックと地図を見ながら行程を決めました。「スタンプ帳」の期限が二〇二四年一月十五日までのところ、私は前年の六月十九日から始めました。道の駅では、まずスタンプ帳に押印し、地元の名物や歴史等、地域の魅力を堪能しました。また、日帰り温泉があるところでは温泉を楽しみました。

東北「道の駅」全百七十

一駅完全制覇を目指しましたが最終的に十月二十六日までに福島県三十五駅全制覇、山形県二十一駅全制覇、宮城県十八駅中十三駅制覇、秋田県三十三駅中二十三駅制覇、青森県二十八駅中二十一駅制覇、岩手県二十八駅中三駅制覇で、百十六駅制覇でした。

道の駅スタッフにスタンプ数達成の確認印を押ししてもらい、応募し、道の駅で使用できるクーポン券三千円分が届きました。

残り五十五駅と、新しく設置された道の駅は、今後ゆっくり巡ってみたいと考えています。

ご逝去の知らせが入ったその日に玉稿が届きました。病魔と闘いながら執筆してくださったことを思うと、万感の思いが胸に迫って参ります。

在りし日のお姿に思いを馳せながら、お読みいただければと思います。

玉川武様のご冥福をお祈りいたします。 合掌

支部総会開催

祝賀懇親会も開催

四月七日(日)午後三時から、四十一名の会員が集い、ルネッサンス中の島にて、令和六年度の支部総会が開催された。

物故会員(八名)への黙祷、開会の言葉、国歌斉唱に続いて支部長挨拶がなされた。

齋藤支部長は、甚大な被害があった能登半島地震に触れ、退職校長会の対応について話された。更に会員相互の交流を深めるために会の活動を充実させていくことや、会員の思いや願いを実現するために県退職校長会等との連携を深めていきたいとも話された。

津北会会長退職校



支部長挨拶

来賓として出席された福土県会長からは六十年を迎えた本会への想いが強く感じられ

た。他に吉川会津教育事務所長様、室井市長様から祝辞を頂いた。

今年度は、七名の新入会員が入会され、鈴木基之様、湯田眞佐利様が出席された。鈴木基之様が定年延長の中で入会の抱負を語って下さった。



総会に出席された新入会員

続いて米寿喜寿の方への記念品贈呈がなされ、若林様から御礼の言葉があった。

その後、湯野尻強様を議長に推挙し令和五年度の事業並びに決算報告、監査、令和六年度の事業計画と予算について承認された。



議長に選出された湯野尻様

今総会では、次の三点についても協議された。一つ目は栗原副支部長が逝去され副支部長が欠員となっているが、今年度は現体制で会運営を進めることが了承された。二つ目は、定年延長に伴い、福島県公立学校退職校長会会則の一部改正を受け、本会では規約申し合わせ事項に「校長の職にあった者に役職(校長)定年者を含む」を追加することも了承された。三つ目は、能登半島地震で被災された石川県に義援金を送る取組を北会津支部でも行うことにした。

休憩後、会津教育事務所長吉川武彦様から演題「定年退職延長の現況」について講演を頂いた。

令和五年度から二年毎に段階的に定年年齢が引き上げられ、令和十三年には六十五歳となる。校長職は、六十歳で役職定年となるが、特例任用校長として勤務される方もいるとのこと。

講演後、祝賀懇親会が開かれた。

お酒を酌み交わしながら近況を報告したり、談笑したりと、楽しい時間が流れていった。

新入会員紹介

心より歓迎致します。

- 山岸 実 様(鶴城小)
 - 鈴木 基之 様(城北小)
 - 杉原 智 様(喜多方一小)
 - 湯田眞佐利 様(坂下南小)
 - 高橋 伸明 様(若松一中)
 - 板橋 和典 様(喜多方一中)
 - 坂口 伸 様(高田中)
- ()内は最終勤務校

山岸 実

三月に鶴城小を退職し、現在、喜多方市教育委員会学校経営アドバイザーとしてお世話になっております。子どもたち、先生方の役に立てるよう努めてまいります。お世話になります。

鈴木 基之

役職定年により三月で城北小学校勤務を終え、特例任用により四月から荒館小学校にお世話になっております。とても幸せな毎日を送っています。どうぞよろしくお願いたします。

杉原 智

四月から特例任用用校長として豊川小学校に勤務しています。九十五名の子供たちと一緒に、もう一年現場で頑張ります。今後とも、よろしくお願いたします。

湯田 眞佐利

四月から坂下町教育委員会で、学校教育アドバイザーとして勤務しています。校内を歩き回ることがなくなり、体組成計の足腰年齢が五歳跳ね上がりました。健康第一で頑張ります。

高橋 伸明

三月末に役職定年となり特例任用校長として若松一中から若松六中へ異動しました。定年延長により妙な感覚を味わいつつも、最後の一年を全力で勤め上げる覚悟で充実した毎日です。

板橋 和典

喜多方一中で役職定年となり、四月から特例任用校長として北塩原一中に勤務しております。もう一年勤務をさせていただけることに感謝しながら精一杯励みたいと思います。

坂口 伸

役職定年を迎え潔く教職の道に終止符を打ち、若き頃に就いていた料理の世界で再出発を図る予定です。大好きな先輩方のおられる北会津支部へ入会いたしました。お世話になります。

六年ぶりの職場復帰から

矢 澤 良 伸

退職してから早いもので七年の歳月が流れました。一年の過ぎる早さは、加速度を増してきています。同時に、体力的な衰えも自覚できてきました。誰もが初めての経験なので不安は募ります。ですから、諸先輩からいただくアドバイスは、今の私にとっては貴重な情報だと感じています。

一昨年、突然の依頼があり六年ぶりに中学校に職場復帰することになりました。長い空白の期間や体力的な衰えもありましたから躊躇しましたが、妻からの後押しもあり引き受けることにしました。

六年間の空白期間に学校環境は、大きく改善されていました。着任当初は、まるでお伽噺の浦島太郎状態でした。

職員室や教室にエアコンが常備され快適に授業ができること、生徒一人一人にタブレットが配備され、授業では生徒も当たり前のように操作していること、一部の教科テストもタブレットで解答すれば瞬時に採点完了、

問題の正答率等も分かるようになってきていること、全校集会は、体育館ではなく、校長室から中継し各教室へタブレットを通して流していることなど驚きの連続でした。

また、再任用された先生方がリーダーシップを発揮され、学校の主軸として活躍されている姿や諸先輩方が今でもピンポイントで生徒と向き合って指導されている姿は、初めて見る光景でした。退職すると自分事を最優先にしがちですが、他人事を優先して頑張っている姿には、とても魅力を感じました。

働き方改革も生き方改革も常に前向きに進められるといいですね。



『全校集会』
～全校生に向け発信中！

悠悠ひろば

学生にパワーをもらっています

一ノ瀬 直 市

私は今、看護専門学校にお世話になっていました。縁あってこの仕事に就いて五年目を迎えました。ちょうど仕事を始めた時が、新型コロナウイルスの発生と同時期で、まるで新型コロナとともに過ごした四年間であったように思えます。

看護専門学校は、高校を卒業後、三年間の学修を経て、国家試験を受験し、正看護師になるというものです。三年間での病院等の実習は一〇三五時間にも及びます。学校で学んでいる学生の姿を見ると、自分の夢の実現に向けて、みんな生き生きとしていて、明るく前向きで、何よりパワーを感じます。

就職率一〇〇%といわれる看護師ですが、今、看護専門学校の受験者数が大幅に減っています。今年の県内の看護師養成校の充足率は六三%で、定員の半数にも満たない学校もあります。少子化といってしまうえばそれまでですが、コロナ禍で看護師の多忙化が指摘され、若者に敬遠されていることや専門学校で



授業風景（足浴の演習）

は、大学進学を希望（大学の看護学部）している人が増えていることも大きな要因です。このままでは、地域の医療が維持できなくなってしまう。恥ずかしい話ですが、私もこの仕事に就いて初めて知りました。

今、看護師の必要性や認知度を高めるために、PRを行っています。以前のように、子どもたちに看護師になりたいと言ってもらえるように、また、看護師を目指して学ぶ学生や看護師の助けを必要とする人にとっても、希望あふれる明るい未来となるように、少しでもお手伝いを続けていきたいと思っています。

学校のあり方が変わる！

唯一無二の学校として

会津若松市立大戸小学校

校長 冠 木 利 香

大戸小学校の特色としてまずあげられるのは、全校生で取り組む緑の少年団での緑化活動です。「花と緑のあふれる学校づくり」と「大戸町に花と笑顔を届け」を合言葉に活動を進めています。

また、ユネスコスクール承認校として、緑化活動の他にフードロスゼロ活動、リサイクル活動、大戸町に伝わるお囃子の継承活動等にも取り組んでいます。小規模校の本校がこうした多岐にわたる活動を継続できているのは、本校の教育活動に協力を惜しまない地域の方々の支援のお陰です。

さらに、大戸小学校は昨年度創立一五〇周年を迎え、この節目の年に小規模特認校となりました。学区外の子ども達にも学びの門を開き、昨年度は八名、今年度は七名の子ども達が、本制度を利用して、本校で学んで

います。この子達の中には、不登校傾向や集団活動への不適応等の課題を抱えている子もいます。

しかし、こうした子も、純朴で本当の優しさを持っている子ども達と、一人一人の子を尊重できる教師陣と、どんな時にも支援を惜しまない大戸町のみなさんとで作り上げる唯一無二の温かな空気感を持つ大戸小学校に、いつの間にか登校するのが当たり前になっていくようです。

前の学校には登校できなかったA君も、昨年度、立派に大戸小学校を卒業してきました。「教室で友達と勉強することも楽しいけど、休み時間に友達とじゃれ合うのがもっと楽しい。」

これは、A君が母親に語った言葉です。本校で学んだ



毎週火曜日、全校生徒で取り組む緑化活動

のはたった一年でしたが、A君の「人生観」を大きく変える一年になったのだと思います。本校で得た経験と自信を糧に、A君がこれから人生を切り拓いて行くのだと思うと、小規模特認校としての存在価値の大きさを痛感します。

大戸小学校はこれからも小規模特認校として唯一無二の教育活動を推進していきます。退職校長会北会津支部の皆様におかれましては、様々な視点からご指導・ご鞭撻をいただけましたら幸いです。

部活動の地域移行について

会津若松市立第三中学校

校長 長谷川 浩 文

今年も中体連の季節がやってきました。五月十二日から大会を皮切りに、総合大会や水泳大会などで中学生のがんばる姿がたくさん見られたことと思います。

さて、新聞やテレビで取り上げられています。中学校の部活動は「部活動の地域移行」が始まっています。部活動の地域移行とは、公立中学校における休日の



地域の方々による部活指導

運動部の部活動を外部に移行する部活動改革です。

それではなぜ部活動の地域移行を行うのでしょうか。一つには少子化があります。第三中学校でも二〇〇〇年には五百九十人いた全校生徒が、今年には二百八十一人と減少しています。部活動の数も、また一つの部活動あたりの人数も減り、学校だけではやりたい部活動ができなくなる可能性があるからです。

さて、会津若松市の部活動の地域移行はどうなっているかというところ、令和元年度から「部活動週末合同練習会」が開催され、今年度から「あいづっこスポーツ教室」として、軟式野球や剣道など十四教室、大戸中などの遠隔地においては、

大戸町体育連盟などが地域移行練習会を開催し、競技などにより年間十回から三十回程度行われます。

その特徴として、各学校において生徒が選択できる部活動の数を減らさず、休日には地域の専門家に力を借りてその競技の本質的な楽しみを味わい、技術の向上を図ることにあります。

そして、平日は教員が、週末はスポーツ指導者や退職教員、保護者や大学生等の地域の指導者が指導を行います。指導者の謝金等は市が負担し、保護者の金銭的な負担はありません。また、令和八年度には地域へ完全移行する予定です。

文化部も、吹奏楽は「吹奏楽アカデミーI's(会津)」が令和五年度より、合唱は今年度から活動するようです。退職された校長先生方にはこの地域の指導者を担っていただければ幸いです。そして生徒たちには、週末の合同練習をとおして切磋琢磨し、技能の向上はもちろん、豊かな社会性なども身に付けることを期待しています。

保 志 和 吉

ご先祖様に感謝し、自分で出来る事は積極的にを行い、現状維持を目標に暮らしている。絵手紙を贈って喜ばれるのが何より嬉しく、また生き甲斐でもある。この五月満百二才を迎えた。

古 川 憲 男

五月の誕生日で米寿を迎えました。歩行困難で室内は押し車で移動してますが外出はできません。そんな生活でも、生きることのすばらしさを実感し、感謝を旨として生きてます。

若 林 正 一

退職と同時に書道を始め、今も続けています。うまく書けずに苦勞しています。でも「継続は力なり」と言い聞かせ、毎日筆を握っています。書は私に「生きる力」を与えてくれます。

齋 藤 健

米寿の年を迎えるが、意を決して、運転免許の更新をする。通院や買物等、生活に必要なためである。潔ぎよく返納する時期はそう遠くないと思われる。その日まで、安全運転。

岩 沢 隆

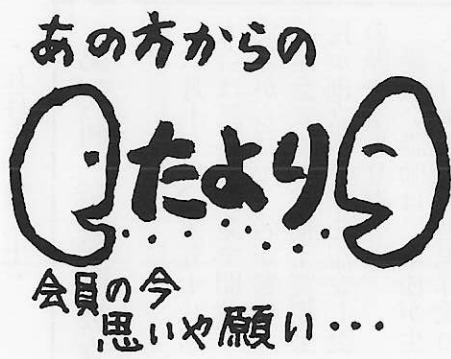
久しぶりに新潟角田山登山。カタクリや雪割草の群生の中を進む。頂上は混んでいたが眺望は最高。佐渡が目の前。低山ながらも満足。下山後は近くのワイナリーで土産を買って帰宅。

栗 村 謙 一

先日見知らぬ子どもから突然「じいちゃんが来た」と言われた。確かに老人ではあるが、もっと背すじを伸ばし、颯そうと歩かなければ、もっともっとじいさんになってしまいそうである。

佐 藤 清 美

東京での五年間の単身赴任生活から戻り、自宅をちょっとリフォームしました。新しい生活の中で一番の楽しみは野菜づくりです。キウリやトマト、ナスたちが実をつけ始めています。



武 田 光 弘

私が勤める会津自然の家では毎日、子ども達の元気な声を聞くことができます。屈託のない笑い声は大人達を癒やしてくれ、年齢のせいか、学校に勤めていた時と少し違って聞こえます。

小 椋 裕

教職を退いて一年。相変わらず仕事と時間に追われる多忙な毎日。そんな中、娘が結婚。寂しさの中にも安堵する気持ちと、自分の親の介護もあり、時の流れを実感しています。

佐 藤 忠 一

現在、磐梯町で学校教育アドバイザーとして勤務しています。幼稚園児や低学年児童と触れ合うことも多く、手を振ってくれたり名前を呼ばれたりする機会があり、元気をもらっています。

神 内 透

季節ごとに様々な味覚を提供してくれるわが家の山や畑。筍の缶詰作りとキウイの追熟にあんぽ柿作り。ネットで学ぶ無花果の天敵対策。一つ一つが新鮮な体験であり楽しい勉強です。

武 藤 成 也

学生寮に勤務し一年経ちました。入寮率は昨年六三%今年七七%と空室のある状態で、今時の学生には：とも思いましたが、親の立場からは存続が必須と考え、寮生確保に努めています。

石 本 浩 一

今年で二十二年目、走行距離十万里のワゴン車。車中泊仕様へと、少しずつ装備を充実させているところです。目標は、自由気ままに日本一周。心をときめかせています。

星 尚 志

時間に追われた現職の時、「退職」という言葉に憧れすら抱いていたが、再任用の教員業務に田畑の管理も加わり、現職時よりも慌ただしい。ゆとりある第二の人生はいつ来るのだろうか。

事務局コーナー

おめでとうございます

◇高齢者叙勲で受章された会員

瑞寶雙光章 渡部 正人様

令和6年3月1日

瑞寶雙光章 若林 正一様

令和6年7月1日

◇春の叙勲で受章された会員

瑞寶雙光章 滝沢 玲子様

◇功績により表彰を受けた会員

全国社会教育連合会長表彰

星 美法様

◇令和六年度「賀寿」

(満九十五歳)を受けられる会員

五十嵐 實様

昭和4年7月20日

遠 藤 孝様

昭和4年9月30日

渡 部 幸久様

昭和4年10月13日

◇令和六年度「賀詞」

(満八十八歳)を受けられる会員

古 川 憲男様

昭和11年5月11日

若 林 正一様

昭和11年6月4日

渡 部 義久様

昭和11年11月3日

福 田 睦之様

昭和11年12月6日

森 田 慶一様

昭和12年1月18日

菊 地 庄意様

昭和12年2月21日

山 内 昇様

昭和12年3月21日

◇令和六年度「喜寿」を

迎えられる会員

葉 貫 正憲様

昭和22年5月2日

星 憲 隆様

昭和22年6月1日

鈴 木 雅之様

昭和22年8月19日

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

羽 染 健一様

令和6年3月29日ご逝去

渡 部 敏郎様

令和6年5月12日ご逝去

玉 川 武様

令和6年5月20日ご逝去

岩 橋 紀男様

令和6年6月25日ご逝去

◇前号以降の主な活動

○会計監査・第二回理事会

・三月十六日(土)

於 河東公民館

○支部総会、懇親会

・四月七日(日)

於 ルネッサンス中ノ島

○第一回幹事会

・四月二十日(土)

於 河東公民館

○県評議員会

・四月三十日(火)

於 吾妻学習センター

○連絡員会

・五月十一日(土)

於 河東公民館

○第58回福島県公立学校

退職校長会二本松大会

・六月十二日(水)

於 二本松御苑

○北会津こどもの森幼保園見学

・六月十八日(火)

於 北会津こどもの森幼保園

○第二回幹事会・懇親会

・七月十三日(土)

於 河東公民館・中ノ島

第58回 福島県公立学校退職校長会

二本松大会開催

六月十二日、第五十八回大会は二本松御苑で開催。支部からは十一名が参加。開会式では、富士寛樹会長が創立六十年を記念し会の歴史を振り返った。

講演会講師は二本松が生んだ日本画家大山采子氏の長女で女優の大山采子氏。演題は「生きることは描くこと、生きることは演じること」。

画室にこもり絵ばかり描いている無口な父。火事の際、家族の無事だけを確認する父。思うような線が描けなくなったら食事はしないという父。その姿から、自分の生きる意味として「顔施」(仏教でいう

布施の一つ)を指すようになったこと等、幼少期からの逸話を交えながらの興味深い講演であった。

午後の発表は、石川・耶麻・いわき支部の代表。閉会式。次回開催地代表として齋藤支部長が、講演者の「ねっか」製造者の脇坂社長や南会津を、ユーモアあふれる口調で紹介し、大会を締めくくった。

布施の一つ)を指すようになったこと等、幼少期からの逸話を交えながらの興味深い講演であった。午後の発表は、石川・耶麻・いわき支部の代表。閉会式。次回開催地代表として齋藤支部長が、講演者の「ねっか」製造者の脇坂社長や南会津を、ユーモアあふれる口調で紹介し、大会を締めくくった。

立60年 公立学校退職



講演者 大山采子氏

編集後記

総会後の懇親会で、「84号の編集後記に『イラストを一部変更。気付かれまして、たか』と書いてあったね。宿題を貰ったような気がして、ずっと考えていたんだよ」と、声を掛けていただきました。編集後記の最後の一行まで、丁寧に読んでくださったことに、感動で胸が熱くなりました。そして、会員の皆様方の思いに込めるためにも、紙面作りを工夫しようと決意を新たにしました。

85号は、磐梯町教育委員会教育長高梨哲夫様、北会津域内の校長先生方を始めとして、多くの会員の皆様方に玉稿をお寄せいただき、発行の運びとなりました。心より感謝申し上げます。たよりのコーナーでは、御年百二歳を迎えられた保志和吉様、米寿を迎えられた古川憲男様、若林正一様からもご寄稿いただきました。「生きるって素晴らしい」このメッセージの詰まった85号は、まもなく開幕するパリオリンピックにも勝る感動を与えてくれるものと確信しております。